



菜匠・青果パッケージ工場（県南工場）

- 本社所在地：栃木県小山市
- 事業概要：青果物の集荷から量販店・外食への供給を担う仲卸。根菜類を軸に、選別・加工・包装の一貫体制と設備投資による生産性を強みとする。
- 常時使用する従業員：80名  
（2025年1月時点）
- 現在の売上高：78億円  
（2025年12月期）
- 法人番号：6060002030125
- Web：https://sai-sho.co.jp/

## 企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役  
尾村 敦司

### 農産物の流通を再定義し、持続的成長を実現

農産物は本来、流通や加工の工夫によって、さらに高い価値を生み出せる可能性を持っています。当社は全国の生産農家、JA(農協)との信頼関係と、青果仲卸として培ってきた現場力を基盤に、選別・加工・パッケージングや設備投資を通じて、青果の価値最大化に取り組んできました。規格外品や未活用原料を商品・事業へと転換し、フードロス削減と収益性向上を両立する付加価値創出モデルを構築していきます。雇用を通じて人の生活を支え、農産物流通の次の姿を示す企業として、さらなる成長に挑戦してまいります。

## 売上高100億円実現の目標と課題

### 実現目標

青果パッケージ工程におけるオートメーション化を段階的に推進し、生産能力の向上と作業員の負荷軽減を同時に実現することで、安定的かつ持続可能な供給体制を強化する。あわせて、R&Dを活用した新たな製品開発や、規格外品・未活用原料の価値転換、農地活用提案などを進め、付加価値の高い事業領域を拡張する。これらの取り組みにより、2027年に売上高85億円、2030年には売上げ100億円達成を目指します。

### 課題

青果の取扱量拡大により売上は堅調に成長している一方、事業規模の拡大に伴い、現場オペレーションや判断の属人化、人材確保・育成の重要性が高まっている。特に、生産性向上や付加価値創出を継続的に進めるためには、設備や仕組みを使いこなす人材、R&Dや商品企画を担う人材の強化が不可欠である。人に依存した成長から、組織として再現性のある成長構造へ転換していくことが、今後の大きな課題である。

## 売上高100億円実現に向けた具体的措置

### 目指す成長手段

青果パッケージ工程において、従来人手に依存していた作業のオートメーション化を進め、設備投資による人件費の抑制と生産能力の向上を図る。これにより、作業負荷を軽減しつつ、生産性を150%以上高める体制を構築する。また、従来廃棄されていた規格外品の活用を進め、商品化や加工による付加価値創出を強化する。あわせて、夏場の野菜腐敗による歩留まり低下を抑制するため、専用冷蔵倉庫の整備を行い、安定供給と収益性向上を両立させていく。

### 実施体制

新たなオートメーションラインの導入については、2025年より段階的に整備を進めており、2026年以降も旧式設備との入れ替えを計画的に実施する体制を構築している。あわせて、青果の価値向上を目的とした広義のR&Dチームを立ち上げ、現場・商品開発・設備の知見を横断的に活用しながら、規格外品の製品化や新たな付加価値創出を加速させる。経営主導のもと、設備投資と人材を連動させた成長体制を推進していく。